

研究課題名	FilmArray®血液培養パネルのバンコマイシンの使用に対する影響
研究機関名	武蔵野赤十字病院 救命救急科
研究責任者	所属 救命救急科 氏名 河口拓哉
研究期間	(西暦) 2023年 12月 ~ (西暦) 2025年 3月
研究の意義・目的	FilmArray®血液培養パネル (以下、FA血培パネル) は、血液培養から検出される主な細菌・真菌と3種の薬剤耐性遺伝子を約1時間で検出できる検査である。感染症診療への貢献が期待されるが、本邦において同検査の有用性を検討した報告は少ない。当院では2022年8月から同検査を導入しており、主に血液培養でブドウ球菌様のグラム陽性菌が検出された症例に対して実施している。血液培養でブドウ球菌様のグラム陽性菌が検出された際に、同菌がメチシリン耐性遺伝子を持つかどうかはバンコマイシンをはじめとする抗MRSA (methicillin-resistant staphylococcus aureus) 薬を使用するかどうかに関わってくる。メチシリン耐性遺伝子を持っていなければ、その時点で抗MRSA薬を中止することが可能であるため、同検査実施によりバンコマイシンの使用を削減することができたかどうかを調べることを研究の目的とした。
研究の方法 (対象期間含む)	<p>【研究のデザイン】 通常の診療で既に取得された診療情報を収集、分析する単独・後向き観察研究</p> <p>【予定研究対象者数】 100人</p> <p>【評価・観察の項目及び方法】 患者基本情報：年齢、性別、入院病棟 検査結果：血液培養の結果、FA血培パネルの実施の有無、FA血培パネルの結果 その他：バンコマイシンの使用状況 (投与期間、投与量、使用バイアル数)</p> <p>【統計解析の方法】 収集した項目についてEZRを用いて統計解析を行う。</p> <p>【研究の期間】 データ抽出対象期間：2021年8月～2023年7月 研究期間：2023年12月～2025年3月</p>

<p>①試料・情報の利用目的および利用方法</p> <p>②利用し、又は提供する試料・情報の項目</p> <p>③試料・情報の取得の方法</p> <p>④利用する者の範囲</p> <p>⑤試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称</p>	<p>①試料・情報の利用目的および利用方法 上記に記載の通り</p> <p>②利用し、又は提供する試料・情報の項目 患者基本情報：年齢、性別、入院病棟 検査結果：血液培養の結果、FA血培パネルの実施の有無、FA血培パネルの結果 その他：バンコマイシンの使用状況（投与期間、投与量、使用バイアル数）</p> <p>③試料・情報の取得の方法 上記に記載の通り</p> <p>④利用する者の範囲 研究責任者のみ</p> <p>⑤試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称 河口拓哉、ならびに武蔵野赤十字病院 院長 泉並木</p>
<p>問合せ先</p>	<p>当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 河口拓哉</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525</p>